



セツ森雪景(セツ展望台から望む)

## 〈コ ン テ ン ツ〉

- 知識の泉(森の話/木の話)
- 自然彩々  
(センターの四季/生き物たちを紹介)
- 究める/広める/育てる(業務最前線)
- 楽/学広場(イベント・研修会)

## M E T S A - M I Y A G I

## 知識の泉(森の話/木の話)

森林や木材に関するとおきの知識をわかりやすくご紹介します。

落葉している今の時期、山に目を移すと常緑針葉樹林と落葉広葉樹林がモザイク状に存在していることがよく分かります。一般的に林業の主役はスギを代表とする針葉樹林ですが、県内の民有林(国が所有する森林を除いた森林)の面積のおよそ4割は広葉樹林によって占められています。

広葉樹林はかつて薪や炭などの燃料生産の場として主に利用され、20年生前後の林齢で伐採されていました。しかし昭和30年頃からプロパンガスなどの化石燃料が普及しはじめると、広葉樹林は次第に伐採されずに放置されるようになり、現在では60年生程度のものが多く高齢化しています。

高齢化した広葉樹林では隣り合う高木の枝葉が重なり合ってしまうため、光が遮断されて林内が薄暗くなっています。林内が薄暗いと高木(注1)性の稚樹(注2)の多くが光不足のため成長できず、動物に食べられたり病気に冒されたりして枯死してしまいます。一方、ササ類や一部の低木は薄暗くても生きていけるため、それらが林床(注3)を密に覆ってしまうとさらに林床は暗くなり、高木性の稚樹はますます成長できなくなってしまいます。

高木は森林の主役であり、その稚樹は森林の次世代を担う大切な存在です。それらを育てるためには一部の高木を伐採したり、ササ類や低木を刈り払って林床を明るくする必要があります。また稚樹の中には大きくなると木材として高値で取引される可能性のある樹種も存在します。そのような樹種の稚樹を積極的に育てることは、将来の林業の活性化にもつながるのではないのでしょうか。

注1: 高木とは、木本のうち木の高さ(樹高)が5mを超える植物

注2: 稚樹とは、芽を出してからあまり年を経ない木(若木)

注3: 林床とは、森林の中の地表面

(環境資源部 田中 一登)



林床をササに覆われた広葉樹の林

自然彩々

地域のオアシスでもあるセンターの四季折々の自然や、センター内に生息している野生生物たちをご紹介します。

★紫色の貴婦人、センウズモドキ

センター内には、環境庁(1991年当時)の『レッドデータブック』の絶滅危惧Ⅱ類(VU:絶滅の危険が増大している種)に指定されている植物が3種自生しています。1つは前号で紹介したサクラソウ、残りはラン科のエビネと今回紹介するキンポウゲ科のトリカブト属のセンウズモドキ(川烏頭擬)です。

センウズモドキは、9月中～10月にかけて3片に深裂した掌状の葉の付け根から花柄を伸ばし、散房状に濃紫色の花をつけます。花の形が鳥兜(舞楽の装束の鳳凰の頭を形どったされる)を思わせることからトリカブトという名が、塊根から強心作用、鎮痛作用、血液循環の改善作用のある漢方薬が得られ、その母根を(川)烏頭、側根を附子と称することから(セン)ウズ、ブシという名がついたようです。濃紫色の貴婦人を思わせる花にみえるのは5枚の萼片で、中にはスミレのように距を持つ花弁があり、花弁のつけ根には多数の雄しべと数本の雌しべ(心皮)があります。

トリカブト属にはフグ毒に次ぐ天然毒が含まれており、アイヌが狩りの矢毒に使ったことが知られています。毒の主な成分であるアコニチンは根に多く含まれますが、他の部分にも含まれているので十分注意してください。

この属はセンウズモドキが沿岸部から低山地域の広葉樹林やスギ林のやや湿ったところでみられるほか、オクトリカブトなど数種が奥羽山脈のやや標高の高いところでみられます。

(環境資源部 梅田 久男)





## 究める／広める／育てる

センター業務の柱である試験研究や普及指導，人材育成（研修）業務の最前線をご紹介します。

### ★林業の明日を担う技術者の育成

センターでは，林業作業に必要な技能講習等の資格取得や間伐・作業道等森林・林業の知識・技術の習得を目的に，基幹林業技能者（グリーンマイスター）育成研修（以下，GM研修）を昭和56年から行っています。また，高性能林業機械の操作技術や作業方法等の習得を目的に，高性能林業機械オペレーター養成研修（以下，OP研修）を平成3年から行っています。今年度は，GM研修を5月31日から7月2日，8月23日から9月10日までの40日間，OP研修を9月27日から10月8日までの10日間の日程で開催し，森林組合や民間会社の職員各6名が参加しました。研修生は，記録的な猛暑のなか積極的に研修に取り組み，無事研修を修了しました。研修生の今後の活躍が期待されます。

（普及指導チーム 細川 智雄）



### ★「里山林管理基礎講座」を開催しました

森林ボランティア及びこれからボランティアとしての活動を希望される方々を対象に，里山林管理基礎講座を開催しました。

この講座は平成20年度から開催しており，今年度は18名の方々に参加いただきました。

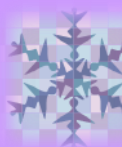
日程は，10月3日，10月17日，11月5日，11月6日の4日間で，「里山林管理の意義」，「雑木林の手入れ」，「人工林の間伐，手道具の使い方とメンテナンス」のテーマにより，講義及び実習を行いました。また，10月29日には自由選択講座として「チェーンソーのメンテナンスと広葉樹の間伐」をテーマに実習を行いました。

参加者はすでにボランティアとしての活動経験が長い方から，はじめての方まで様々でしたが，参加者の里山林への関心の高さには，圧倒される思いでした。

この講座を通して身近な里山林の価値を再発見していただき，これからも，里山林に関わっていただけたらと思います。今後の森林づくりの活動にあたり，当センターがお役に立てましたら幸いです。

（普及指導チーム 粕谷 玲子）





## 楽/学広場

センター主催の各種イベントや研修会の開催結果、今後の開催予定などをご紹介します。

### ★林業技術総合センター一般公開の開催

昨年度までは「森林交流祭」の名で開催していましたが、今年からは「宮城県林業技術総合センター一般公開」という名称に改め、去る11月13日（土）秋晴れの下、多くの一般県民に参加いただき盛会裡に開催しました。

一般公開は当センターが行っている試験研究の内容や施設を広く県民に紹介するとともに、森林・林業に関する体験等を通して森林・林業についての理解を深めてもらうために開催したものです。具体的な催しものは、参加者に出来るだけ体験してもらうことをメインに、センター内の施設「見学ツアー」や樹木等の「観察会」、竹林の「間伐」や「炭焼」体験、さらにはフォワーダやロギングトラクターなどの林業機械の操作体験などを行い、大人から子供まで広い年齢層に森林・林業について直接感じてもらいました。

一方、来客者に楽しんでもらうために、「お楽しみコーナー」を設けました。ここでは当センター内で採取した松ぼっくり、どんぐり、つる類などを使って、木製時計やコースター、クリスマスリースなどの木工クラフト作りが楽しめ、途中で材料を追加するほど親子で熱心に取り組んでいるのが印象的でした。販売コーナーでは、地元で生産したハタケシメジやマイタケ、原木シイタケなどのきのこ類、さらに今年から仙台駅で販売がはじまった「秋の吹き寄せ」駅弁の委託販売を行い、ほぼ午前中で完売してしまいました。

また新イベントとして、まだ一般には見ることが少ない「チェーンソーアート」をはじめの試みとして行い、一迫林業研究会の高橋氏による巧みなチェーンソー扱いの実演に多くの見学者が感心していました。

なお当日は、併催行事として「環境緑化木講座」も開催され、事前申し込みによる参加者が100名を超えるなど、例年にないほど人気のある講座となりました。

（企画管理部 坂田 照典）



「一般公開」開催メイン広場



チェーンソーアートの実演



環境緑化木講座の開催状況





### ★平成 22 年度林業技術総合センター成果発表会

平成 22 年 11 月 26 日（金）に大衡村の平林会館を会場に林業技術総合センターの成果発表会が開催されました。当日は県内から約 80 名の参加者の下、午前は各地方振興事務所の林業普及指導員による普及活動成果の発表が行われ、午後は当センターの研究員による試験研究の成果の発表が行われました。さらに今回は、去る 9 月に宮城県で開催された「東北・北海道ブロック林業グループコンクール」で最優秀賞を受賞した、南三陸町山の会の活動内容を紹介した「森林づくり、人づくり、地域づくり」を会長の高橋長晴氏により特別に発表してもらい、地域で活躍する林業研究グループの活動を広く伝える機会をつくることができ、今まで以上に有意義な成果発表会になりました。

普及活動成果部門における優秀賞は、審査の結果、東部地方振興事務所の「林業公社との連携で町有林の利用間伐推進を実現」、大河原地方振興事務所の「ナラ枯れ被害防除への取組」、北部地方振興事務所栗原地域事務所の「ムラサキシメジの栽培について」の 3 点に決定しました。（企画管理部 佐藤 行弘）



### ★ジュニア・インターンシップ

センターでは毎年、地域の中学校及び高等学校の要請より、学生の職場体験学習（ジュニア・インターンシップ）を受け入れております。今年も 10 月と 11 月の 2 回にわたり、中学生 2 名と高校生 4 名を受け入れました。カリキュラムの内容は、スギ種子の採取や樹木の生長量調査から木材試験体の各種計測、キノコの生育環境の整備など多岐にわたっており、わずか 3 日間

の林業の体験学習ですが、終了後の感想では「学校では体験できない貴重な経験をすることができた」との意見をもらっています。

体験学習での取組の様子については、いずれの学生も礼儀正しく、センター職員の説明をよく聞くとともに、質問も積極的にするなど非常に好感を持ちました。なお、全員男子学生のためかフォワーダなどの林業機械の操作体験などでは、終了時間を忘れるほどに熱中していたのが印象的でした。（企画管理部 佐藤 千一）



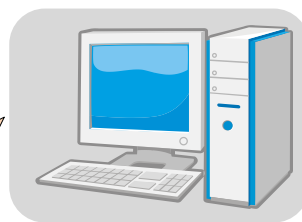
### 宮城県林業技術総合センター

〒981-3602

黒川郡大衡村大衡字はぬ木 1 4

TEL022-345-2816 FAX022-345-5377

<http://www.pref.miyagi.jp/stsc/>



メッサ(MESSÄ)とは・・・  
森をこよなく愛するフィンランド人の言葉で「森、木」を意味します。